



●研究会大会・色彩教材研究会の発表

11月26日（土）開催の秋の研究会大会において色彩教材研究会員の6名の方が、研究発表をされます。

タイトルなどを紹介いたしますので、秋の研究会大会に参加して聴講してください。

◆セッション1（座長：山根幹事）

◇10:00 - 10:20 大型組み立てブロック

“RenBlock”の色彩展開の検討

吉澤陽介（木更津工業高等専門学校）

◇10:20 - 10:40 高齢者における明度の違いによる色彩弁別能力の評価

忍足優菜（木更津工業高等専門学校）

◇10:40 - 11:00 デジタル教材を用いたカラーコーディネーション演習による示唆

榎芳栄（TBSテレビ）

◆セッション2（座長：吉澤主査）

◇11:10 - 11:30 貴石の色

田森恭子（明成）

◇11:30 - 11:50 源氏物語から読み解く平安の色 平山和香子（Atelier WANOKA）

◇11:50 - 12:10 岡本太郎が思考した美意識の特徴 一言語文化論の視点から一

吉村耕治（関西外国語大学短期大学部）

◆参加申込は、19日までに日本色彩学会のホームページからお願いします。（永田泰弘）

進化する改良メダカの美的特徴

日本原産の野生メダカは、クロ（黒）メダカと呼ばれるが、黒みがかった茶色をしている。水質・水温の変化に強く、容器があれば飼えるという飼育の容易さから特に2001年以降、メダカの品種改良が進んでいる。

朱赤やピンクのカラフルなメダカが突然変異や異種交配を重ねることで誕生している。

野生のクロメダカには、黒・白・黄・虹色に見える色素が備わっている。これらの色素胞の色素の割合によって、様々な色のメダカが生まれている。改良メダカは、現時点でも7項目35種類に系統化されている。

体色は黄、白、青、ブラック、黄金（2001年誕生；改良メダカの原点）、琥珀、朱赤、オレンジ、ピンク、茶の10種類に、透明鱗は透明と半透明に、目の変化はアルビノ、スモールアイ、出目、パンダ、目前、ビッグアイに、紅色素胞は鱗の一枚一枚が光るラメ、背中が光る体外光、体内光、全身体内光、腹膜光に、柄（がら）は斑（ぶち）とブラックリムに、ヒレは菱尾、ヒレ長など7種類、体型はダルマなど3種類に分類されている。

改良メダカの体色や透明鱗、紅色素胞、体光にも、日本の美意識が反映している。

（吉村耕治）

●色彩データ・ライブラリの利用—3

XYZ表色系の教え方

色彩学を教わる際に、最初に挫折を覚えるのが、XYZに出会った時です。

色彩データライブラリの、「4.表色系」に「N4-2 RGB・XYZ表色系の教え方」という合計44頁のパワーポイント教材があり、これに丁寧な説明を添え使ってください。

上記の教材は、混色系と顕色系のちがいがから入り、三原色表色系の意味、加法混色と減法混色の原理、解りにくい等色関数の説明。等色関数は多くのグラフを使っていますので、理解を助けます。

RGBとXYZの関係から、X、Y、Zはそれぞれどんな色なのかが想像できる説明。

xとXの関係と、xy色度図の着彩図とその説明などがあります。（正しい表記はRGBやxyz・XYZ・uvは斜体文字を使います。）

xy値とマンセル値の位置関係を示す8枚のグラフがあり、その関係を理解させるために役に立つでしょう。

最後にuv色度図上にマックアダムの楕円を描いた図で締めくくっています。

「1.素材」にあるグラフを追加して、教材を充実したものに変わっていただければ、嬉しく思います。（永田泰弘）